

O.S.P



VOL.15
December

{ OSPREY / SPIRITUAL / PERFORMER }

無料

ご自由にお取りください

Keep it on the down low!!

—並木敏成が語るあのルアーの真実—
～冬を制するリアクションの釣り～

O.S.P
動画

... ▾ ...

随時更新!!



O.S.Pプロスタッフがホームレイクを徹底紙上ガイド

The Field Guide

～大塚高志@亀山湖～

TOPICS

並木敏成

Basser Allstar Classic

4位入賞!!

腕利きプロスタッフが明かす必須ルアー

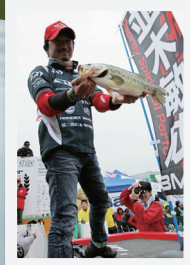
二羽の鶯の眼

冬のリザーバーはこれだけでいい!!
寺沢庸二 / 見上祥太

緊急特別企画!!

オリキン、H-1グランプリ 年間優勝を獲得!!

～今シーズン全5戦を振り返る～



並木敏成&O.S.Pの最新情報はこちら。

並木敏成 ↓

O.S.P ↓



Journal

緊急
特別企画!!

昨年のマスターズカップ制覇に続き

オリキン、 H-1グランプリ年間優勝を 獲得!!

使えるのはハードベイトのみという過酷なトーナメント、H-1グランプリでO.S.Pプロスタッフの“オリキン”こと、折金一樹が年間優勝を果たしました! そこで緊急特別企画。オリキンが自身で今シーズンを振り返ります。加えて活躍したルアーもご紹介。自分で自分の首を絞めることになりかねない本企画。ぜひ、ご一読ください!!



第1戦

デカメスの小スクールを
モノにして
相模湖開幕ダッシュに成功。

相模湖

初戦となる相模湖。なんとしてもスタートダッシュしたいところ。年間成績を考えるならノーフィッシュは避けたい。そんな第1戦。湖はスポーニング入りかけで、ビッグウェイトも狙える状況でした。そこでボクが狙ったのは、スポーニング前のフィーディングフィッシュと、これからスポーニングに入るデカメスのスクーリングフィッシュ。試合では朝イチ、ハイカットとi-Waverで500g前後をキャッチ。しかし、曇りで水温上昇が乏しく、デカメスが上がってこない。なんとかお昼過ぎのわずかな晴れ間にデカメスの小スクールと遭遇し、小さめながらi-Waverでキロアップのキャッチに成功。お立ちには届かなかったものの、2490gで9位と好発進を果たすことができました。



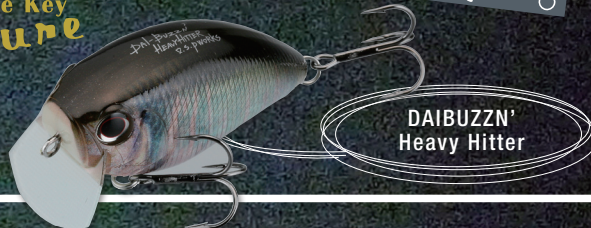
The Key Lure

i-Waver



絶対に負けられない
ホームグラウンドでの戦い。

The Key Lure



DAIBUZZN'
Heavy Hitter

亀山湖

第2戦

関東のメジャーレイクを転戦するH-1トーナメントで唯一、ホームレイクと呼べる亀山湖。後々を考えると絶対に外せない一戦でした。湖はスポーニング後のアフター真っ盛り。虫系やギル系の定番の釣り、その一方で激しい表層ボイルなども見られ期待が高まる状況。しかし、前日の冷たい雨で一変。10時頃までノーバイト... 何度もバスの上がり口となるキースポットに入り直し、暖かくなったころ、少しずつ魚っ気が出てきてチャンス到来。まずはオйкаワボイルにベントミノでナイスキーパー。そしてボトムに張り付いたキッカーフィッシュを発見。いろいろ試すも食わせ系は効かないと判断し、目先を変えたダイバズンヘビーヒッターのゴロゴロト音に突如メガバイト。その後はミス連発でしたがなんとか1本追加し2480gで4位。上々の成績なのですが、実はなんとも悔いの残る一戦でした...

第3戦

牛久沼

The Key Lure

Tiny BLITZ

釣れないが出ればデカイと噂の牛久沼。プラでは魚にもなかなか触れず、再現性も薄い。しかもこの時点で年間トップという中で迎えた一戦。上位の誰かしらがビッグウェイトを持ち込んで、逆転されることも想定されます。ただし同じように勝負に出た場合のリスクが高すぎることから、なるべく引き離されないプランを模索。そこでリスクの高い一発狙いを避け、なるべく魚影の濃いエリアでルアーを絞り込み、ミドルサイズ狙いを選択しました。当日、ドピーカンとなった牛久沼はビッグも豆サイズも激シブな状況で、結果的にタイニーブリッツの速巻きで人生最小となる160gのバスをウエイン。そんなに甘くはなかった牛久沼ですが、釣る人はしっかり焦点を定め釣ってくる。まだまだ経験も引き出しも甘いと感じる試合でした。ただ逆転はされたものの、大きくは引き離されず、シーズンを折り返しました。

人生最小の一匹が
あとあとで大きく影響した
大事な一戦。

往復5時間の移動がもたらした
2016年のベストバウト。

新利根川

第4戦



The Key Lure

LOUDER70

魚影も濃く、ハードルアーにも反応がいい新利根川。確実にキーパーを釣り、キッカーフィッシュをどう混ぜるか。釣りやすい新利根川だからこそ、どうやって他人を出し抜くかに力を注ぎました。まずはサマーパターンを考慮したエリア選び。流れと水質がいい場所は、やはりコンディションのいいバスが狙って釣れる感じ。この水を求めてたどり着いたのが、スタート地点から10~13kmも離れた上流域。往復の移動に5時間を要し、釣りに割ける時間は3時間弱。しかし仕掛けるなら今とこの強行プランを実践。効率のいいポートポジションやトレースコースを吟味し、わずかな時間ロスを省き、全身全霊でワンキャストワンキャストを決めていきました。バンクのタイプによりルアーを使い分けましたが、中でも活躍したのは新作ラウダー70。イナッコを捕食するナイスコンディションのバスを仕留めてくれました。結果、5本キャッチし3本2330gで5位。予想以上の成績で、今年のH-1ではベストゲームと言える試合でした。

第5戦

津久井湖

あらゆる面で
冷静な判断力を要した
最終決戦。

年間一位で迎えた最終戦。2位との差は1kg強。最終戦の舞台となった津久井湖は、キーパーも釣れるし、ビッグもある。まったく気の抜けない最終戦となりました。とはいえ1kgの差を生かし、いかにキーパー3本(300g×3)を揃え、年間総合ウェイト2kg差を保つかというのが重要。これは逆の立場で考えると、2kg差を逆転するにはひとつ上の展開を強いられることになるからです。フィールドは夏の減水から平水まで回復し、明らかに秋パターンへ移行しつつありました。加えて、放水後の流れが止まったタイミングで日に日に難しくなっているという印象。まずは魚影の濃いエリアでハイカットDRですぐに2本のキーパーをキャッチ。そしてワカサギにリンクしたミドルサイズ狙いで岬まわり。魚探の魚影はいかにも釣れそうですが、ここではニゴイとハスのオンパレード。そして岬から続く内側まで視野に入れ、何回も往復。そして待望のときではいきませんが、400gを追加。タイニーブリッツDRをPEシステムのスピニングタックルで使い、5~6mを攻略しての結果です。最終的に1060gで22位。幸か不幸か、ローウェイト戦となり、結果的に年間一位を死守。ガンガン攻めるのも勇気がいるますが、冷静にウェイトを読み、レイクコンディションから狙いを絞り、それを的確に遂行する。年間優勝を見据えて戦っていくには、こういった釣りも必要であることを実感した、いい経験になりました。

The Key Lure

Tiny BLITZ DR





item O.S.Pジグ03ハンツ

ここぞというスポットで丁寧に。

九州のリザーバーで、秋～冬に押さえておきたいのは03ハンツトロングです。年中、さまざまなシチュエーションで活躍するジグですが、この時期はディープの岩やブレイクなどの変化があるスポットで、ナイスフィッシュをつれてくれる実績が高いです。アクションは基本、ボトムまで落としてからリフト&フォールやボトムパンピング。季節の進み具合によってはまた秋を引きずっている場合もありますので、そのときは横方向の動きを意識してカーブフォール気味に誘ってみるのも有効です。使うウエイトは大体7～14gで、リアクションで口を使わせる状況になるにつれて重くすると考えてもらえればOK。そして、

トレーラーのワームもそのときのバスの嗜好でローテーションします。私の場合はリザーバーのベイトフィッシュを意識してドライブシャッド3.5インチを軸に、ツメの波動のリアクションでドライブクロー、フォールスピードとボディからの波動で誘うドライブスティック4.5インチと

いった感じです。また03ハンツトロングはシリコンラバーとリピングラバーが巻いてあり、2つのラバーから発生する波動と、着底後のリピングラバーのホワホワ感が、この厳しい時期のバイトに持ち込むアクセントになっています。(※長いリピングラバーがトレーラーワームの動きに干渉する際は、少しカットするとGOOD)。秋が終わりにくらず、冬がはじまりきらないタイミングで悩んだ際はぜひ、ご活用ください。



O.S.P.ジグ03ハンツ

このコーナーでは、O.S.P.が誇るプロスタッフ陣が自身のホームレイクのシーズンパターンをもとにこの時期に欠かせないアイテムとその使い方を解説。ぜひ参考にしてほしい。

12月のリザーバーに不可欠なO.S.Pルアー



item オーバーライド

身も心もアツくなれるメタルバイブ。

12月の相模湖は寒さが増し、ハイシーズンのような釣果が出しづらくなりますが、まだ水中はミッド～レイトフォール。エリアや釣り方では、十分に狙える時期です。時にはハイシーズン以上の釣果が出せたりもします。ご存知かもしれませんが、ベイトが固まるにつれて、バスもエリアに固まってきます。そのエリアを狙めるか狙めないかで、はっきりとした釣果の差が出ます。寒さが

増すことでハイシーズンの「居れば食う」から、「時合いのみ食う」に変化。この時合いを大事に、気になるエリアをラン&ガンすることが釣果に繋がります。そんなとき、手返しの多さで確率を上げられるルアーがオーバーライド。ハイビッチバイブレーション、多彩なスライド&ダートフォールでリアクションバイトを誘います。狙いはやる気のあるバスのみ。貴重な時合いをスローなアプローチでは効率、確率とも

に落ち、キャッチ率が下がります。相模湖では5～20mレンジまでサーチするので3/16oz、1/4oz、3/8ozを使い分け。カラーはローライトやステインで黒金オレンジベリ、ゴールデンアユ。クリアならアユ、濁るワカサギ。さらに、少し弱く感じたらホコ系のアイスシャッド。逆に強く感じるならマット系の寒鰯をチョイス。寒い時期、スローな釣りはきつい、苦手と言う方もおすすめです。かなりアツくなれますよ(笑)。



オーバーライド



いいたします。応援よろしくお願

釣りに行くからこそ、仕事も家庭も円満なのです。

作って釣りに出かけましょう！ そうしたら自分自身フレッシュできるし、その結果、仕事も家庭も円満にいくと思います。私も今シーズン、NBC霞ヶ浦チャプターで年間優勝し、2年連続AOYを獲得。これからも全国の忙しいお父さん方の希望となれるよう、今後のト

全国のお父さんangler様。釣りに行きたくても、自由に釣りに行く前には必ず、こんなことをしているのです……だから釣りに行く前には必ず、こんなことをしているのです……

O.S.P.プロスタッフ 納谷宏康さんの場合

あなたなら、どうする？ どうしてる？

釣りに行くためのOOO

PRESENT!

event@o-s-p.net



(オーバーライド3/8oz)

オーバーライド3/8ozを5名に!!

- ① このパンフレットをどちらのお店で手にしましたか
- ② このパンフレットの率直な感想
- ③ このパンフレットに求める情報
- ④ 釣り歴とホームグラウンド
- ⑤ O.S.P.で好きなルアー

以上5点の回答に加え、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、ご応募ください。締切は2016年12月31日(土)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

個人情報について、ご提供いただきました個人情報厳重に管理し、賞品の抽選、発送および当選者への連絡に使用します。また、提供者の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはございません(法令等により開示を求められた場合を除く)

オリキンの

夜光貝ミノー



ヒミツの 小部屋

水面の食わせと言えば、ボクの中で絶対なのが、オリカネ虫とマイラーミノー。中でもマイラーミノーはその名の通りマイラー繊維が挿入されていますが、ボクが黙ってマイラーだけで満足するわけもなく、あれこれ入れまくり(笑)。そんな中でもイチオシなのが、この夜光貝。夜光貝にメッシュを入れて、粘着フィルムで挟む。それを中空部分の形に合わせるだけ。かなり釣れる気にさせてくれる… マイラー、じゃなかった夜光貝ミノー!? ぜひ、お試しあれ。



KEEP IT ON THE DOWN LOW

これは、ここだけの 秘密

並木敏成が語るあのルアーの真実

と いうこと で ...

Theme

冬を制するリアクションの釣り

このパンフレットを手にした、あなただけが知ることができるあのルアーの真実と、本当の使い方。

冬の釣りは大別すると2タイプ 中層のスローとボトムリアクション

いよいよ厳しいシーズンが到来。だがそんな冬を制する釣りについて、今回は話を進めていこうと思う。これからの低水温期の釣りは、大別すると2タイプある。ひとつは中層のスローな攻め。たとえばi-Waver、もしくはルドラ、ヴァルナ、さらにはダンクなどのサスペンドミノー、およびシャッドを使って長い時間、放置に近い状態で水中にとどめる。またアラバマリグが極めて効果的になるのと同様に、タイフーン(3/4oz・1oz)やハイピッチャーマックス(5/8oz・3/4oz)を使った、バスにとって小魚の群れに見えるようなハイピールなものの中層でスローに、かつ一定に引いてくる。そんな引き方で中層にぼーっと浮くデカイ個体を仕留める、というもの。

しかしこの釣りは天候やタイミングに左右されるため、まったく効かないことがあるという大きなリスクを背負うことになる。しかし安定を求めるのであれば、大別されたもう片方の釣り、つまり越冬バスが身をひそめるボトムでのリアクションの釣りである。こちらは冬のバスの住処を直撃する釣りであるため、先述した中層の釣りよりも確率は必然と高まる。

代表的なリアクションの釣りはメタル オーバーライドの卓越された長所とは

リアクションの釣りの代名詞といえばメタル系。中でもメタルパイプは水質を問わず、おかつぱり、ポートも不問。守備範囲も広く、バスに出会うことができる確率は非常に高いルアーだと言える。

そもそも、メタル系の釣りとしてジギングスプーンはあまりにも有名だったが、この手のルアーはリフトするとスーッと上がるだけ。落ちるときには多少スライドしたり、カストマスターのようにブルブルと震えながら、もしくはホブキンスのように斜めにスッと落ちるものもあるが、持ち上げたときのスーッと上がるだけの動きは、クリアレイクではヨシとされるものの、マッディではアピール不足である。あとはポートにおいて、深いところをパーチカルに探るときはジギングスプーンの出番となるのだが。

メタルパイプにおいては、リトリープでもリフトでも、ブルブルと明確な振動が手元に伝わる。この振動がマッディでもサカナにアピールしてくれる。また、ものによってはフォール時にスライドフォールするタイプも存在する。

そして何より、ダブルフックの搭載で根掛かりに強い。ジギングスプーンの場合、仮に根掛かったとしてもその真上に行くことができれば、ジグ本体の重さを利用して、刺さったフックをバックさせられるため外しやすいものの、横に引いたりおかつぱりで使用することを考えると、ダブルフックのほうが明らかに根掛からない。

これら長所に加え、引いて使用したときもブルブルとアクションすることも踏まえると、マッディ、ステイン、そしてシャロー、ディープを問わずに使えるのはメタルパイプであることがわかるだろう。

自分が多用するメタルパイプは、言わ

ずもがなのオーバーライド。泳ぎ出しが非常にいいため、浅いところ、ときに数10cmだけのリフトで誘うこともあるのだが、そんな使い方にも即座に対応。また滞空時間の長い多彩なスライドフォールは水質や水深を問わず、高確率でバイトを誘発する。中にはストンとまっすぐ落ちるメタルパイプもある中で、オーバーライドは多方向へスライドしながら落ちるため、幅広い範囲のサーチが可能。つまりそれだけ、バイトのチャンスが広がるのだ。

ちなみにこのスライドフォールは、ボディをほぼ横、いわば横倒しになって落ちていくのだが、体高があるデザインオーバーライドは、フックがラインを拾ってしまう「エビ」になることはほとんどない。またスライドフォールすることに特化させるとリフト時の立ち上がりが悪くなる傾向にあるのだが、これを両立させることは開発時に非常に苦労した点である。

そんなオーバーライドだが、12月上旬に1/8ozが追加されることで、全5サイズがフルラインナップとなる。中でも注目は今シーズン、新たに追加されたライトウエイトモデル。使用するラインによっても異なってくるが、目安として1/8ozは護岸際などの1~5mぐらい、3/16ozにいたっては2

~10mぐらいまでを守備範囲とする。また1/4ozモデルにおいてはフロロカーボンの12lbを通して使って10mまで。しかしPEの0.6~0.8号に8~12lbぐらいのリーダーをセットすれば20m超のディープでも感度が落ちることなく、メリハリのあるシャクリも可能にし快適に使えることを覚えておいてほしい。

またハイプレッシャーなフィールドや、タフコンディション下では、たとえディープであっても小さなシルエツトであれば口を使わせられることが多い。そんなときに今年、追加された1/8ozや3/16ozなどのライトサイズがシャローマッディレイクのみならず、クリアディープレイクでも強力な武器になるだろう。

最後に、確実にフッキングおよびランディングするためにも、ダブルフックを開くチューニングが有効なのだが、詳しくはO.S.Pプロスタッフの寺沢庸二と一緒に解説しているO.S.P動画が公開されているので、ぜひそちらをご覧ください。

最後に、確実にフッキングおよびランディングするためにも、ダブルフックを開くチューニングが有効なのだが、詳しくはO.S.Pプロスタッフの寺沢庸二と一緒に解説しているO.S.P動画が公開されているので、ぜひそちらをご覧ください。

最後に、確実にフッキングおよびランディングのためにも、ダブルフックを開くチューニングが有効なのだが、詳しくはO.S.Pプロスタッフの寺沢庸二と一緒に解説しているO.S.P動画が公開されているので、ぜひそちらをご覧ください。

ボトム付近での素早いメリハリのある動きを シャッドテール系ワームで出す方法

次はこのメタルパイプのアクションを伴った、ボトム付近でのメリハリの利



いた動きをワームで出す方法についてご紹介しよう。それはHPシャッドテールやドライブシャッド(ときにドライブスティック)を使った、ヘビーダウンショットである。

ここで使用するウエイトについては、ワームのボリュームおよびその抵抗によって決め、この組み合わせ次第ではバイト率も大きく変わってくる。そこでこれまでの経験から導き出したラインとウエイトの組み合わせを明記すると、HPシャッドテールの3.1インチおよび3.6インチには、オープンウォーターおよびディープでは8lbなどの細め。レイダウンやブッシュ、消波ブロックの穴撃ちなどのカバー絡みでは14lbをチョイス。シンカーのウエイトは7gが基準。HPシャッドテール2.5インチについてはベイトフィネス系であれば5g、スピニングタックルに4lbラインであれば3.5gでもいいだろう。

ドライブシャッドについて、3.5インチにおいては10g、4.5インチは3/4~1oz、6インチにおいては1oz以上のシンカーをチョイス。これらのシンカーでリーダーの長さは15cm平均というのが標準的なセットである。



HPシャッドテールは2.5インチなら4lbラインに3.5g。ベイトフィネスであれば5gをチョイス。3.1インチおよび3.6インチは8~14lbで、シンカーは7gが基準

ドライブシャッドもそのサイズによって使い分けている。写真は4.5インチに、シンカーは21gをセット。6インチでは1オンス以上のシンカーをセットすることも



並木とO.S.Pプロスタッフの寺沢庸二が探し当てたディープパターンが正解であったことは、並木が45cmクラスを連発したことが何よりの証拠。見どころ満載のこの動画はこちら→<https://youtu.be/Xu0SsHHx7nQ>

リフト時はテールをブルブルと震えさせ、フォール時はシンカーが着底するまでと、してからの動きのメリハリをつけながらスライドフォールする。まさにメタルパイプのリフト&フォールと同じで、根掛かりしにくく(フックがワームにオフセットされているため)、バスの目の前で緩急をつけた動きで執拗に誘うことを可能にしている。ここの一番のフッキングはハリがむき出しのメタルパイプだが、その釣り残しを根こそぎかつさらうためにも有効な釣り。それが、シャッドテールワームのヘビーダウンショットなのである。

ヘビーウエイトのO3ハンツでボトムを小突く 超ピンスポットのネコリグも忘れずに

最後に、ヘビーウエイトのO3ハンツでボトムを小突くようにバンプさせる釣りや、「ド」ピンをタイトに、超スローに攻められるネコリグも忘れてはならない。ネコリグと聞くとドライブクローラーを思い浮かべる人が多いだろうが、ドライブシュリンプ4インチやドライブカーリーも、低水温期には有効で自分も気に入っている。特にシュリンプの逆手や触覚はある程度放置していても漂うように動き、まるでラバージグのラバーがバスを焦らすような動きと同じ効果を持っている。つまり単純なストレート系よりも、バイトを誘発する要素に長けたアイテムなのである。平均15cmまでをお試しあれ



これらの釣りをマスターしておけば、これから訪れる厳寒期も怖くない。ノーフィッシュとは無縁のアングラールになれるだろう。

これらの釣りをマスターしておけば、これから訪れる厳寒期も怖くない。ノーフィッシュとは無縁のアングラールになれるだろう。



O.S.PジグO3ハンツの17.5gや21gもまた、冬のリアクションの釣りの定番アイテムだ

ドライブシュリンプのネコリグは、超スローかつタイトにピンスポットを攻めるのにベスト。逆手や触覚が放置しても漂うように動きバイトを誘う

水質および水深を問わず、冬は何かと出番があるオーバーライド。越冬場にいるバスを直撃し釣っていくため、中層の回避系よりは釣れる確率が高く安定感に長ける釣りである

Field Guide

関東屈指のビッグバスリザーバー、亀山湖。週末、平日を問わず多くのアングラーで賑わい、言わずもがな、プレッシャーは非常に高い。またトーナメントも規模の大小を問わず多く開催されており、クレーバーなバスが多いことで有名。そんな人気リザーバーの攻略法を大塚高志が解説。

案内人はこの人

おつかたかし
大塚高志

ツワモノ揃いの亀山湖で開催されるさまざまなトーナメントに積極的にエントリー。NBCチャプター房総で年間1位を奪取するなど、その実力は確か。パワーフィネススタイルを武器に、フィールドの状況を的確に見極め、確実にバスをキャッチしていく。最近ではカスミ水系のおかつぱりにも尽力するなど、精力的に活動している



12 よりとも島まわり

北風をプロテクトする冬の定番エリア。フラットな地形が続き、シャローカバーが隣接している。太陽が上がり、温かくなってきたらこのシャローカバーを撃ってみるのもおもしろい



13 中の島

月毛沢や笹川からのカレントなどが集まるインターセクション部に位置する島。それら川筋から落ちてきたサカナが溜まりやすいスポットだ。夏場の減水時にはその位置を目で確認できる(満水時は完全に水没)。湖の真ん中に浮かぶオレンジ色のブイを目印にするといい



14 トキタ岬

岬の先端で一気に落ちるが、それ以外は比較的フラットな地形が続く。ベイトフィッシュありきのエリアで、魚探でそれが確認できればダウンショットのシューティング。広範囲に探るならヘビキャロがおすすめ。ポートポジションを水深7mぐらいのところにとり、3mぐらいから深くはじめる部分を狙ってみよう



朝イチ、実釣開始早々に起きたボイルにすかさず投じたHPシャッドテールのノーシンカーでキャッチ。ボイルがなくてもこのリグは、バスを下から引き寄せさせるパワーがあるという



亀山湖のシーズナルパターン 12月でも朝イチは表層からスタート

木枯らしを機に、日に日に水温が下がっていく12月。しかし冬本番とまではいかず、この時期でもまだ表層で反応を得ることができるというからおもしろい。いきなりディープからスタートするのではなく、まずは水面および水面直下から釣りを開始する、という冬のパターンを覆す釣りこそ、大塚のスタイルだ。「12月でも、朝イチはフィーディングでバスが浅いところに差してきます。実際に、ボイルも起きますから。ハイシーズンと比べると、それこそ数は少ないですが、クオリティの高い一匹が獲れます。まずは表層をHPシャッドテールのi字引きやトウイチで探ってください。ボイルしていなくても、下から浮いてきて食うことだってありますよ」と大塚は言う。加えて、キーになるワカサギの存在。水温が10℃を切つてくると、ワカサギにつくバスを狙ってディープにシフトしていく、というのが大塚のセオリーだ。



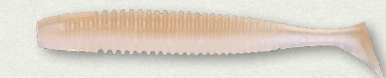
いきなりディープじゃなく冬でもまずは表層の釣りでクオリティフィッシュが獲れます!!



水温が下がってくると、シャローカバーも見逃せない。大塚が得意とするパワーフィネススタイルで撃っていくといい。リグはドライブクローラー5.5インチのネコリグ(2.7g)やO4シンクロ5g+ドライブシュリンプ4インチなど

① 岩の上島

ディープが隣接するフラットエリア。急なブレイクがあり、そこを伝ってバスが浅いところ上ってくる。12月でもボイルが起きるのもここ。寒さが厳しくなるとこのエリアの8~10mぐらいを狙う



《亀山湖おすすめルアー①》 HPシャッドテール2.5インチ(ノーシンカー)

シーズンを通して出番があるが、この時期はノーシンカーで表層から水面直下を引いてくる。まっすぐに引いてくるだけでも、ときおりトウイチを入れるのも有効。ボイルしていなくても、下から浮いてこさせるパワーがある。小粒ながらグッドサイズの実績も高い

② 白鳥島

ディープとシャローの両方を狙える場所。ここも朝イチはフィーディングのバスが見受けられる。やはり寒が進むにつれ、レンジを深くしていく。落としても12mまでというのがひとつの目安



③ 馬の背

水中に続く岬で、バスがフィーディングに上がってきやすい場所。この岬を境に両側に深いところ。14~15mぐらいのディープがつかがる。文字どおり馬の背状の地形のトップ、水深5mぐらいが狙い目



④ じいさんワンド

寒くなるとバスが避難してくる場所。フィーディングで入ってくる個体も少ない。朝イチは比較的バスが口を使いやすく、まずはここからスタートしてみるのもあり。実績も非常に高いスポットだ

おりきさわポート

折木沢上流域や猪の川、医院下などさまざまな有望エリアを攻めるならおりきさわポートが便利。さまざまなタイプのポートを揃えており、1人乗りは2,450円〜。エレキやバッテリーのレンタルもある。木・金曜日以外は店内で昼食をとることも可能。お土産用のスイーツも大人気。<http://www.orisikawa.com/>



オーバーハングへのスキッピングだけでなく、3.5インチはヘビキャロで使用することも。ディープを手返しよく攻めていくのに欠かせないリグ。大塚は21gのシンカーをチョイスしている

⑧ 藤林

水中に立ち木が入っており、これにつくバスとフラットにいるサカナ、その両方を狙うことができる。狙うのは水深7~8mのなだらかに落ちているところ



⑨ 段々畑

その名のとおり、昔の畑の跡。水深が浅いところからブレイクになっていて、バスが通りやすい。目安としてバンクから30mほど沖にポートポジションをとると、ブレイクをきれいにダウンヒルでトレースできる



《亀山湖おすすめルアー②》 ドライブホッグ2.5インチ

ヘビキャロやダウンショットで使用。ドライブシャッドで食わないときのローテーションの一角を担い、またヘビキャロのテンポに反応しない場合はダウンショットでねちねち探るなど、食わせに特化したアイテム



《亀山湖おすすめルアー③》 ドライブシャッド4.5インチ(ノーシンカー)

オーバーハングにスキッピングで滑り込ませて使用。水面直下から流していき、反応がなければや下のレンジをトレース。オーバーハングの奥にレイダウンやオダなどが見えるときは、それに添ってフォールさせてみることも忘れなく



⑦ ばあさんワンド

じいさんワンドの隣にあることがネーミングの由来。中は狭く、そのすべてに可能性があるため、できるだけ細かく刻んでチェックすること。岬の先端で急激に落ちるので、バスが上下動をしやすい場所だ



⑥ 神社下

岩盤の上に見える神社が目印。カレントが当たらず北西風もブロックする代表的な越冬場。なおかつ水中にオダも入っており、根掛りの頻度に応じてダウンショットやスモラバを使い分けて探るのが大塚流



⑤ じいさんワンド入口

エリア④の Maus 部。ブレイクから上がってきた浅いところとディープが隣接。この北面に見える道路の跡がこのあたりまでつながっている。魚探で見ると一目瞭然、らしい

